



「ディスカバー農山漁村の宝アワード」応募用紙（団体用）

都道府県名（必須）	〇〇県	市町村名（必須）	〇〇郡〇〇村
-----------	-----	----------	--------

団体名（必須）	（注）応募フォームと同一名称
---------	----------------

1. 団体の概要（必須） ※設立年、組織、構成員、構成員数、役割分担等の実施体制を記入してください。

平成〇年〇月に非営利団体「〇〇の会」を立ち上げ。地元生産者で構成される「〇〇地区有志の会」は棚田の管理と農作業を、「〇〇の会」は棚田再生事業の企画運営のボランティア活動と、共に棚田保全に取り組んでいる。

また、棚田再生の取り組みに地域貢献活動としてプロサッカーチーム〇〇、〇〇交響楽団をはじめ、〇〇町、〇〇大学コンソーシアム、〇〇総合研究所・JA〇〇、〇〇（株）からの支援のもと、棚田の再生をおして地域の活性化に貢献。役員：〇名（うち事務局〇名）

2. キャッチフレーズ（必須） ※20字以内で記入してください。

〇〇の〇〇までの再生を。

3. 活動のきっかけ（必須） ※200字以内で記入してください。

日本の棚田百選「〇〇の棚田」を再生したいとの思いのもと、平成〇年〇月に非営利団体「〇〇の会」を立ち上げた（当時の会員数は〇名）。棚田所有生産者ら地元農家も「〇〇地区有志の会」を立ち上げ、ともに棚田再生の活動をスタート。また、〇〇を運営する社団法人〇〇県スポーツ振興〇〇協会や、〇〇総合研究所、村などと協定を結び、棚田での米づくりに光を当て協働で棚田再生に取り組んだ。

4. 取組概要（必須） ※50字以内で記入してください。

農作業体験や支援団体とのイベント活動、棚田米の販売など地域内外の協力による、棚田再生と地域活性化。

5. 取組の具体的内容及び成果（効果）（必須）

※応募フォーム「該当する取組」で選択した項目についての活動内容、時期及びその成果（効果）を600字以内で記入してください。（他地域への影響、関係者との連携、先進性・独創性・話題性、情報発信、所得・雇用の増大などの観点から記載願います）

① 棚田再生への取組

平成〇〇年度から「〇〇の会」会員を募集し、棚田再生に賛同する組織と連携し田植え交流会、稲刈り作業、収穫交流会を始めた。また、会員数は年ごとの増減はあるものの、令和〇年度には〇〇名となり、棚田再生面積も初年度は〇aだったが令和〇年度には〇haまで拡大。

② 各種イベントの開催

〇〇と連携し〇〇棚田サッカー大会を開催。初年度（平成〇年度）〇名の参加から平成〇年度には〇名の参加となった。しかし、令和〇年度は暖冬の影響で、令和〇年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

また、平成〇年度から「棚田で〇〇」、平成〇年度からワラビ採り体験を、令和〇年度には、〇〇交響楽団メンバーとの「棚田で〇〇コンサート」を開催するなど、交流人口の拡大に努めている。

③ 棚田米の販売

収穫した棚田米は「〇〇米」、サッカーチームの「〇〇棚田米」、「〇〇棚田米」として、レストラン「〇〇」〇〇シェフの「おいしい〇〇レシピ」をつけて販売。平成〇年度は約〇tを販売し、年々販売数量を増やしている。また、販売収益は運営資金にあてている。

6. 活動実績（必須） ※「項目」は、具体的な活動内容ごとに記入してください。

項 目	単位	H29 年度	H30 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度 (見込み)
〇〇再生面積	ha	3	3	3	3.5	4	4
	解説： 荒廃農地及び当該年度より作付けしない水田						
〇〇の販売数量	トン	5.5	6.0	6.1	6.2	6.3	7
	解説： 各年度の「〇〇米」、「〇〇米」、「〇〇米」の〇〇販売数量)						
〇〇会会員数	人	50	55	66	77	88	100
	解説： 各行事への参加などボランティア活動に参加してもらえる会員数						
	解説：						

※R2年度、R3年度及びR4年度（見込み）について、新型コロナウイルス感染症を原因として減少または減少となる見込みである場合は、実績値に「※」を記入してください。また、新型コロナウイルス感染症関連で実績に影響がある場合は、「5. 取組の具体的な内容及び成果（効果）」に影響を踏まえた対応や工夫を記入してください。

7. 活動の主な変遷（必須） ※活動の主な変遷について記入してください。

初年度	H29 年度	H30 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度 (見込み)
平成〇年、〇〇の会、〇〇地区有志の会設立	〇〇摘み体験を開始	〇〇採り体験を開始	〇〇棚田米がデビュー	棚田で〇〇コンサートを開始	新型コロナウイルス感染症の影響により自粛	棚田で〇〇コンサート等を再開

8. 今後の展開方向（必須） ※200字以内で記入してください。

※期待できる波及効果があれば併せて記入してください。

〇割まで減少した棚田が、〇〇まで復活することができた。最終的には一番上の棚田までよみがえらしたい。〇〇の棚田風景を維持しながら地域を元気にしていくために、新たなイベントを開催するなど、地域外にもこの取組をPRし、知名度の向上や交流者の増加などを図り、棚田の文化的景観を次世代に継承していきたい。

9. 活動状況がわかる写真、効果を示す図表（必須）

※写真・図表の説明を20字以内で記入してください。また、活動を代表する写真を3枚以上添付してください。

※第三者の肖像権、著作権、プライバシー等を侵害することのないよう十分に御注意ください。

※写真等を貼り付ける際は圧縮するなどして、Wordのファイルサイズが5M以下となるようにしてください。

写真・図表等	写真・図表等
)	(

写真・図表等	写真・図表等
()	()
写真・図表等	写真・図表等
()	()

10. 表彰等の受賞歴 （該当あれば） ※現在、応募中の表彰等も記入	
表彰名等（受賞年度）	主催者
〇〇年〇〇大賞グランプリ（平成〇年度）	〇〇県

11. 活動に関するPR・エピソード （自由記入、写真等添付可）
※応募用紙が3ページを越えないようにしてください。
「〇〇の棚田」再生事業の旗印を掲げて〇年。棚田はよみがえりつつある。この再生には、地元生産者ならびにボランティアとして共感し活動している〇〇の会の会員、そして賛同し支援していただいている〇〇、〇〇交響楽団はじめ多くの皆様との取り組みが再生につながっている。 棚田は、四季折々の景色も美しいが、特に秋の稲刈り後に天日乾燥する稲杭い掛けが整然と並ぶ景観は、まさに日本を代表する原風景。しかし、棚田での米作りは、多くの労力とコストを要し、経済的にも維持するのは難しいという現実も知っていただきたい。私たちの棚田の再生と景観の維持にかかる活動費は、棚田米の販売代金が原資。ぜひ全国の皆様から、地域の人々と育んだ棚田米の購入をとおして、私たちの活動を応援していただきたいと思っている。 現在、「〇〇の棚田」のある〇〇地区でも少子高齢化が進んでいるが、地域を元気にするのは生産者と田んぼで一緒に汗を流すことが一丁目一番地との考えで、これからも皆さんとチカラを合わせて前に進みます。

【注意事項】

- ① 記入欄に指定された文字数の範囲内で記入してください（文字の大きさも変更しないでください）。
- ② この選定は、農林水産行政施策の推進として、選定された取組内容を全国へ発信することが目的であることから、応募用紙に記載・掲載いただいた内容及び写真については、農林水産省が行う広報活動及び地方公共団体への情報提供等（農林水産省ホームページへの掲載、選定事例集への掲載、政府施策紹介資料への掲載など）に使用することがございますので、あらかじめ御了承ください。（個人名については公表、使用はいたしません。）
- ③ 提出いただいた応募用紙等については返却いたしませんので、あらかじめ御了承ください。